

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ホンダ テクニカル カレッジ 関東
設置者名	学校法人ホンダ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	サービスエンジニア学科	夜・通信	320.4	160	
	一級自動車整備学科	夜・通信	1,195.2	320	
	研究開発学科	夜・通信	1,245.6	320	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ホンダ テクニカル カレッジ 関東
設置者名	学校法人ホンダ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページによる開示 https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	本田技研工業役員	2023. 04. 01 ~ 2024. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	本田技研工業役員	2022. 11. 30 ~ 2024. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	本田技研工業役員	2022. 11. 30 ~ 2024. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	本田技研工業役員	2023. 04. 01 ~ 2024. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	ホンダ自動車販売協 会会長	2022. 06. 01 ~ 2024. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	八千代工業（株）	2022. 06. 01 ~ 2024. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	本田技研工業	2023. 04. 01 ~ 2024. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	ホンダ テクニカル カレッジ 関東
設置者名	学校法人ホンダ学園

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ホンダ テクニカル カレッジ 関東
設置者名	学校法人ホンダ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
3月上旬	次年度授業用担当教員に授業計画書の作成方法について説明
3月下旬～中旬	授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成
3月中旬	学科ごとの課長が記載内容をチェック
4月	授業計画に基づき、授業開始 (4月以降、学生向けに全学科・全学年の授業、 http://hondacollege.net/ (WEB 掲示板にて、詳細開示)
6月末	学校以外の関連イベント日程反映(技術コンクール日程決定等)を ふまえ、年度ごとに最終授業計画書の公表
授業計画書の公表方法	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

取り組み実施概要

学生にはキャンパスガイドを配布し、新1年には、授業開始に伴い詳細説明を実施する。

〈試験の方法〉

学科(講義)については、筆記試験、実習(演習、実験、実習、実技)については実技試験を原則とする。

但し、一部の实習については、レポート提出が必須での実技試験実施となる。

〈試験の受験資格〉

期間中の各科目の出席が学校に定める出席時間を満たしていること。

※原則として、各科目の90%以上のこと。

補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。

【細則による】

(学習評価の基準)

第17条 学習評価の時期は、各学期末及び全科目修了を認定するときとする。

2 各学期末の学習評価は、平常試験、報告書及び期末試験を総合して評価する。

3 学習評価は、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

- (1) 5 : 特に成績優秀な者
- (2) 4 : 成績良の者
- (3) 3 : 成績普通の者
- (4) 2 : 成績やや劣る者
- (5) 1 : 成績特に劣り、不合格の者

4 評価は、次の基準による。

●試験点数の評価

- (1) 5 : 90 ~ 100点
- (2) 4 : 75 ~ 89点
- (3) 3 : 60 ~ 74点
- (4) 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

●報告書の評価

- (1) 5 : 非常に優れている
- (2) 4 : 優れている
- (3) 3 : 普通
- (4) 2 : やや劣る
- (5) 1 : 劣る (再提出の必要がある)

5 期末及び卒業試験の合格点は、各科目毎に100点満点による60点以上とする。

- 6 追試験または再試験等の得点は、試験結果の 90%を得点とみなす。但し、追試験に至った理由が止むを得ないものであると認められた場合は、この限りではない。

(追再試験の取扱)

第 18 条 追試験または再試験の手続、その他の事項は、次のとおりとする。

- (1) 追試験または再試験を行なう日時、場所及び方法は学校が指定する。
- (2) 追試験を受けようとする者は、欠席理由を明記した追試験願を事前に提出しなければならない。
- (3) 追試験または再試験の願い出には、願書に追試験及び再試験 1 科目ごとに 2,000 円を添えなければならない。
- (4) 再試験については、特別な補講をもってこれにかえることができる。
- (5) 病気その他やむを得ない理由により追試験または再試験を欠席する場合には、欠席理由を明記した追試験または再試験延期願を事前に提出しなければならない。この場合にあつては、追試験または再試験料は免除する。

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・客観的な指標の具体的な内容

各学生の履修科目の成績を、学則細則 17 条の「学習評価の基準」に基づき、学習評価点の平均を求め指標としている。

<指標の算出方法>

・各授業科目について、各学期毎（前期・後期）に実施の 5 段階（5～1）での学習評価点の合計を、履修科目で除した平均を「総合評価平均順位」とし、平均値が高い順番に並べたものを「総合評価平均順位」としている。

また、学科学年の成績分布状況を各学期末に把握している。

<算出の公表>

・算出方法を、「学習評価の基準・修了／卒業の認定」の中で、<成績評価基準>としてホームページで公表している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業の認定に関する方針の具体的内容

学則の第1条の本校の目的である

「高度の一般教育と実践的専門的な技術及び理論を習得させ、
新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、
社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした
者に卒業を認定する。

- ・自動車整備士として必要な自動車整備技術（自動車の基本構造／
点検／整備／故障診断）に関する知識・技術を習得し、それらを
法規および安全に配慮し実施できる。
- ・「自動車ものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務
や開発実務で活用できる。

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

学則細則 23 条に基づき、以下のように実施

卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、
出席率良好、性行良好と認められるものには、校長が卒業を認定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ホンダ テクニカル カレッジ 関東
設置者名	学校法人ホンダ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/
財産目録	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/
事業報告書	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	一級自動車整備学科 (旧：一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	4323.6 単位時間	1533.6 単位時間	68.4 単位時間	2721.6 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	4323.6 単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
470人		237人	1人	38人の内数	1人	39人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>国家一級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目を実施。また、1級自動車整備士にふさわしい高度な自動車構造・自動車電気電子・故障探求術得を目標とする。</p> <p>加えて、社会人として必要な一般教養科目も実施。4年間の授業科目・時間数は学則で定め、全科目の修得を必須としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書の作成課程 <ul style="list-style-type: none"> 3月上旬 次年度授業用担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月下旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック

4月	授業計画に基づき、授業開始
【4月以降、学生向けに全学科・全学年の授業、 http://hondacollege.net/ (WEB 掲示板) にて、詳細開示】	
6月末	学校以外の関連イベント日程反映(技術コンクール日程決定等)をふまえ、年度ごとに最終授業計画書の公表。
成績評価の基準・方法	
<p>(概要) 学則細則に基づき以下のように実施</p> <p><試験の方法> 学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、または、報告書(レポート)に加えて実技試験の場合もある。</p> <p><試験の受験資格> 期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。 ※原則として各科目の出席90%以上の出席。 但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。</p> <p><試験の合格基準> 各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。</p> <p>試験点数の評価は、 (5) : 90~100点 (4) : 75~89点 (3) : 60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。</p> <p>報告書の評価は、 (5) : 非常に優れている (4) : 優れている (3) : 普通 (2) : やや劣る (1) : 劣る(再提出の必要がある)</p> <p>追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。 但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合はこの限りではない。</p> <p><学習評価の基準> 成績の評価は、学則細則17条(学習評価の基準)に基づき、 1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。 2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。 3. 学習評価は、5段階で表す。 (5 : 特に成績優秀な者) (4 : 成績良のもの) (3 : 成績普通の者) (2 : 成績やや劣る者) (1 : 成績特に劣り、不合格の者)</p> <p><修了の認定></p>	

<p>各科目の修了はその科目の出席の状況及び試験の成績を認定する。</p> <p>※各科目修了の認定は、学習評価の基準で（2：成績やや劣る者）以上とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業の認定に関する方針 学則第1条の本校の目的である「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を得させ、新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。 ・自動車整備士として必要な自動車整備技術（自動車の基本構造／点検／整備／故障診断）に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。 ・「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。 ・社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニケーションをとる事ができる。 <p>学則細則23条に基づき以下のように実施 卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
53人 (100%)	0人 (0%)	49人 (92.5%)	4人 (7.5%)
（主な就職、業界等） 自動車メーカー、自動車関連企業、開発支援企業、自動車販売会社			
（就職指導内容） 定期個別面談による進路確認と就職先の斡旋、進路別説明会、社会人基礎研修、企業説明会、企業セミナーの実施。就職試験に向けた個別指導の実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家一級小型自動車整備士 受験者数53名 合格者数48名			

損害保険募集人自動車単位	受験者数 77名	合格者数 71名
ホンダSE2級	受験者数 53名	合格者数 53名
(2022年度2年修了者実績)		
国家二級自動車整備士ジーゼル	受験者数 63名	合格者数 63名
国家二級自動車整備士ガソリン	受験者数 63名	合格者数 63名
ホンダ資格SE3級	受験者数 63名	合格者数 63名
損害保険募集人基礎単位 (含む研究開発学科)	受験者数 133名	合格者数 132名
危険物取扱者 丙種	受験者数 60名	合格者数 58名
(備考) (任意記載事項)		

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
271 人	14 人	5.2 %
(中途退学の主な理由) 精神不安・進路変更・病気・意欲喪失・成績不振等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 精神的に不安定な学生については、カウンセラー・保護者を巻き込んだ指導フォロー、定期面談からの早期意欲減退の発見、低成績者に関する補講による底上げ		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	研究開発学科 (旧:一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース)		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	4296.6 単位時間	1306.8 単位時間	615.6 単位時間	2374.2 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	4296.6 単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
490 人		218 人	9 人	41 人の内数	3 人の内数	44 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
<p>国家二級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目を必要時間以上実施。3・4年次は、自動車開発技術の修得を目標に学科および実習科目を実施。加えて、社会人として必要な一般教養科目も実施。4年間の授業科目・時間数は 学則で定め、全科目の修得を必須としている。</p> <p>・授業計画書の作成課程</p> <p>3月上旬 次年度授業用担当教員に授業計画書の作成方法について説明 3月下旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成 3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック 4月 授業計画に基づき、授業開始</p>	

6 月末	<p>【4 月以降、学生向けに全学科・全学年の授業、 http://hondacollege.net/（WEB 掲示板）にて、詳細開示】</p> <p>学校以外の関連イベント日程反映（技術コンクール日程決定等） をふまえ、年度ごとに最終授業計画書の公表。</p>
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>学則細則に基づき以下のように実施</p> <p>＜試験の方法＞</p> <p>学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。</p> <p>＜試験の受験資格＞</p> <p>期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。 ※原則として各科目の出席 90%以上の出席。 但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により 補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。</p> <p>＜試験の合格基準＞</p> <p>各科目の合格点は、100 点満点による 60 点以上とする。 試験点数の評価は、</p> <p>（5）：90～100 点 （4）：75～89 点 （3）：60～74 点 60 点未満の場合は再試験を行う。</p> <p>報告書の評価は、</p> <p>（5）：非常に優れている （4）：優れている （3）：普通 （2）：やや劣る （1）：劣る（再提出の必要がある）</p> <p>追試験または再試験等の得点は、試験結果の 90%を得点とみなす。 但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りではない。</p> <p>＜学習評価の基準＞</p> <p>成績の評価は、学則細則 17 条（学習評価の基準）に基づき、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。 2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し 5 段階で評価する。 3. 学習評価は、5 段階で表す。 <p>（5：特に成績優秀な者） （4：成績良のもの） （3：成績普通の者） （2：成績やや劣る者） （1：成績特に劣り、不合格の者）</p> <p>＜修了の認定＞</p> <p>各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して 認定する。</p>	

<p>※各科目修了の認定は、学習評価の基準で (2：成績やや劣る者)以上とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業の認定に関する方針 学則第1条の本校の目的である「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を得させ、新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。 自動車整備士として必要な自動車整備技術（自動車の基本構造／点検／整備／故障診断）に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。 「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。 社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニケーションをとる事ができる。 <p>学則細則23条に基づき以下のように実施 卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
69人 (100%)	0人 (0%)	66人 (95.7%)	3人 (4.3%)
(主な就職、業界等) 自動車メーカー、自動車関連企業、開発支援企業、自動車販売会社			
(就職指導内容) 定期個別面談による進路確認と就職先の斡旋、進路別説明会、社会人基礎研修、企業説明会、企業セミナーの実施。就職試験に向けた個別指導の実施			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
・(2022年2年修了者実績)			
国家二級自動車整備士ジーゼル	受験者数	59名	合格者数 59名
国家二級自動車整備士ガソリン	受験者数	59名	合格者数 59名
ホンダ資格SE3級	受験者数	59名	合格者数 59名

損害保険募集人基礎単位（含む一級自動車整備科）	受験者数 133名 合格者数 132名
危険物取扱者 丙種	受験者数 54名 合格者数 48名
(備考) (任意記載事項)	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
264人	13人	4.9%
(中途退学の主な理由) 精神不安・進路変更・病気・意欲喪失・成績不振等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 精神的に不安定な学生については、カウンセラー・保護者を巻き込んだ指導フォロー、定期面談からの早期意欲減退の発見、低成績者に関する補講による底上げ		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士					
工業	専門課程	サービスエンジニア学科 (旧:自動車整備科)	○						
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	2136.6 単位時間	858.6 単位時間	0 単位時間	1278 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	2136.6 単位時間	
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
200人	137人	17人	30人の内数	1人	31人の内数				

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>国家二級整備士資格の取得を目標に「自動車整備士養成施設の指定基準」に定められた学科および実習科目をより多く実施。</p> <p>加えて、2年次には、整備系の弊社におけるインターンシップ実施。また、一般教養科目から社会人基礎力向上を目指す。2年間の授業科目・時間数は学則で定め、全科目の修得を必須としている。</p> <p>・授業計画書の作成課程</p> <p>3月上旬 次年度授業用担当教員に授業計画書の作成方法について説明</p> <p>3月下旬～中旬 授業担当教員が科目ごとに授業計画書を作成</p> <p>3月中旬 学科ごとの課長が記載内容をチェック</p> <p>4月 授業計画に基づき、授業開始</p> <p style="padding-left: 2em;">【4月以降、学生向けに全学科・全学年の授業、http://hondacollege.net/ (WEB 掲示板)にて、詳細開示】</p> <p>6月末 学校以外の関連イベント日程反映（技術コンクール日程決定等）をふまえ、年度ごとに最終授業計画書の公表。</p>
成績評価の基準・方法

(概要)

学則細則に基づき以下のように実施

<試験の方法>

学科については筆記試験、実習については実技試験を原則とする。但し、実習については、報告書をもって試験に代える場合、または、報告書（レポート）に加えて実技試験の場合もある。

<試験の受験資格>

期間中の各科目の出席が学校で定める出席時間を満たしていること。
※原則として各科目の出席90%以上の出席。
但し、出席時間が基準に満たない者に対しては、学生の願い出により補講授業を受けて不足分の出席時間数を補うことができる。

<試験の合格基準>

各科目の合格点は、100点満点による60点以上とする。

試験点数の評価は、

(5) : 90~100点

(4) : 75~89点

(3) : 60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。

報告書の評価は、

(5) : 非常に優れている

(4) : 優れている

(3) : 普通

(2) : やや劣る

(1) : 劣る（再提出の必要がある）

追試験または再試験等の得点は、試験結果の90%を得点とみなす。

但し、追試験に至った理由が止むを得ないと認めた場合は、この限りではない。

<学習評価の基準>

成績の評価は、学則細則17条（学習評価の基準）に基づき、

1. 評価時期は、各学期末および全科目修了を認定するときとする。

2. 学習評価は、報告書及び試験を総合し5段階で評価する。

3. 学習評価は、5段階で表す。

(5 : 特に成績優秀な者)

(4 : 成績良のもの)

(3 : 成績普通の者)

(2 : 成績やや劣る者)

(1 : 成績特に劣り、不合格の者)

<修了の認定>

各科目の修了は、その科目の出席の状況及び試験の成績を勘案して認定する。

※各科目修了の認定は、学習評価の基準で

(2 : 成績やや劣る者) 以上とする。

卒業・進級の認定基準

<p>(概要) 概要)</p> <p>必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業の認定に関する方針 学則第1条の本校の目的である「高度の一般教育と実際の専門的な技術及び理論を得させ、新時代にふさわしい健全有為な社会人を育成」に基づき、社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の卒業の基準を満たした者に卒業を認定する。 自動車整備士として必要な自動車整備技術（自動車の基本構造／点検／整備／故障診断）に関する知識・技術を習得し、それらを法規および安全に配慮し実施できる。 「自動車やものづくり」に関するホンダの最新技術を理解し、整備実務や開発実務で活用できる。 社会人としての基礎力を身につけ、相手との円滑なコミュニケーションをとる事ができる。 <p>学則細則23条に基づき以下のように実施 卒業認定会議の結果、卒業に必要な全科目が一定の基準に達し、出席率良好、性行良行と認められるものには、校長が卒業を認定する</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>入学前教育。クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など</p>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>																												
<p>卒業生数</p>	<p>進学者数</p>	<p>就職者数 (自営業を含む。)</p>	<p>その他</p>																									
<p>87人 (100%)</p>	<p>2人 (2.3%)</p>	<p>77人 (88.5%)</p>	<p>8人 (9.2%)</p>																									
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>自動車メーカー、自動車関連企業、自動車販売会社</p>																												
<p>(就職指導内容)</p> <p>定期個別面談による進路確認と就職先の斡旋、進路別説明会、社会人基礎研修、企業説明会、企業セミナーの実施。就職試験に向けた個別指導の実施</p>																												
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <table border="0"> <tr> <td>・国家二級自動車整備士ジーセル</td> <td>受験者数</td> <td>87名</td> <td>合格者数</td> <td>87名</td> </tr> <tr> <td>・国家二級自動車整備士ガソリン</td> <td>受験者数</td> <td>87名</td> <td>合格者数</td> <td>87名</td> </tr> <tr> <td>・ホンダ資格SE3級</td> <td>受験者数</td> <td>87名</td> <td>合格者数</td> <td>86名</td> </tr> <tr> <td>・損害保険募集人基礎単位</td> <td>受験者数</td> <td>82名</td> <td>合格者数</td> <td>72名</td> </tr> <tr> <td>・危険物取扱者 丙種</td> <td>受験者数</td> <td>67名</td> <td>合格者数</td> <td>58名</td> </tr> </table>				・国家二級自動車整備士ジーセル	受験者数	87名	合格者数	87名	・国家二級自動車整備士ガソリン	受験者数	87名	合格者数	87名	・ホンダ資格SE3級	受験者数	87名	合格者数	86名	・損害保険募集人基礎単位	受験者数	82名	合格者数	72名	・危険物取扱者 丙種	受験者数	67名	合格者数	58名
・国家二級自動車整備士ジーセル	受験者数	87名	合格者数	87名																								
・国家二級自動車整備士ガソリン	受験者数	87名	合格者数	87名																								
・ホンダ資格SE3級	受験者数	87名	合格者数	86名																								
・損害保険募集人基礎単位	受験者数	82名	合格者数	72名																								
・危険物取扱者 丙種	受験者数	67名	合格者数	58名																								
<p>(備考) (任意記載事項)</p>																												

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
165 人	14 人	8.5 %
(中途退学の主な理由) 精神不安・進路変更・病気・意欲喪失・成績不振等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 精神的に不安定な学生については、カウンセラー・保護者を巻き込んだ指導フォロー、定期面談からの早期意欲減退の発見、低成績者に関する補講による底上げ		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
サービス エンジニア 学科	280,000 円	500,000 円	667,400～ 704,200 円	その他に含まれるもの 実験実習費・設備維持費・教 育充実費・諸雑費(校外研修 費・安全運転講習費・雑費・ 後援会費・同窓会費)
一級自 動車整備 学科	280,000 円	500,000～ 556,000 円	576,600～ 727,800 円	
研究開 発学科	280,000 円	500,000～ 556,000 円	652,500～ 727,200 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p><主な評価項目> 「学校評価ガイドライン」に基づいて(教育理念・目的・育成人材像等、学校運営、教育活動、教育成果、学生支援、教育環境など)を設定している。</p> <p><評価委員会の構成>…委員の定数と構成 業界の有識者より1名/企業の役職者より1名/卒業生または保護者 1名 その他校長が必要と認める者 若干名(現在2名)</p> <p><評価結果の活用方法> 評価結果については、今後の教育内容や学校運営の改善に向けた取り組むべき課題については、事業計画策定時に検討し次期事業計画に反映している。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社 ホンダカーズ埼玉	R4. 4. 1～R6. 3. 31	企業代表

株式会社 オートテックジャパン	R4. 4. 1～R6. 3. 31	企業代表
本田技研工業株式会社	R4. 4. 1～R6. 3. 31	企業代表
埼玉県ふじみ野市役所	R4. 4. 1～R6. 3. 31	地域住民（自治体） 代表
ホンダ テクニカル カレッジ 関東 後援会	R5. 4. 1～R6. 6. 30	保護者代表
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/about/disclosure/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	8030005008598
学校名	ホンダ テクニカル カレッジ 関東
設置者名	学校法人 ホンダ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		59人	54人	64人
内訳	第Ⅰ区分	33人	26人	
	第Ⅱ区分	14人	17人	
	第Ⅲ区分	12人	11人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				65人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-	0人	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	-	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。